

奥州遺産

No.74

ときを越え
受け継がれるもの

南下幅念佛剣舞

Ⅱ 胆沢区南都田 Ⅱ

胆沢区南都田地区の東部、市道下萱刈窪鶴田線以北の南下幅地域で、南下幅念佛剣舞は受け継がれている。

南下幅念佛剣舞は、寛政3年（1791）に渡辺甚四郎清時から南下幅の卯太郎に伝えられ、文化14年（1817）に卯太郎が初代庭元となった。力強く大地を踏む舞いは、六字名号（南無阿弥陀仏）を唱える念仏信仰と結合。古来は悪魔降伏、衆生救済などを祈って踊られたといわれ、昭和35年に旧胆沢村の無形民俗文化財に指定された。

一時は後継者不足で存続が危ぶまれたが、地域や男女を問わず門戸を広げ、現在は21人が活動を行う。平成28年10月16日、「南下幅念佛剣舞200年祭」として追善法要と巻物伝授式が行われ、33年ぶりに第34代の新庭元が誕生した。優しさと力強さを併せ持つ、いにしえの舞いを伝える南下幅念佛剣舞。その伝統と心意気は連綿と紡がれていく。



Ⅰ 200年祭で地域住民らを前に11演目を披露。伝承活動への意気込みを示した Ⅱ面は阿面（青色・口を開いている）と咩面（口を閉じている）の2種類。阿面が跳人のリーダーを務める Ⅲ真っ赤な装束は釈迦や山王の猿などに当たるカッカタ。道化役としてコミカルな舞いで笑いを誘う



広告